

2021年11月19日  
十勝バス株式会社

令和3年度「地域新 MaaS 創出推進事業」採択の実証事業、  
マルシェバス運行開始と内覧展示会実施のお知らせ

十勝バス株式会社（北海道帯広市、代表取締役社長：野村文吾）が幹事企業を務める「十勝・帯広新モビリティ検討協議会」（以下、「本協議会」）は、経済産業省「令和3年度スマートモビリティチャレンジにおける先進実証」に採択された「マルシェバス」の運行を12月5日（日）より開始し、それに先立って報道関係者向け内覧展示会を12月4日（土）に帯広市 駅北多目的広場（愛称「夢の北広場」、住所「北海道帯広市西2条南11丁目」）にて実施しますのでお知らせいたします。

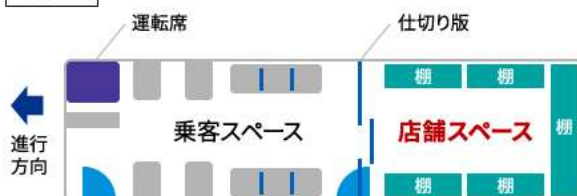
マルシェバスとは、遊休状態にある路線バスの車両後方を改造してマルシェ機能を付与し、始発出発前や終点到着後に移動販売店舗として運用します。帯広駅と帯広市郊外の団地（帯広市大空町）を結ぶ路線において、2021年12月5日から毎週日曜日と木曜日の2回運行されます。商品販売は地元百貨店である藤丸が担い、生活雑貨や食品などを販売します。

遊休車両を改造したマルシェ機能付き路線バス

改造前



改造後



出典：KPMG ジャパン プレスリリース（2021年10月14日）

## 外装イメージ



マルシェバスは、経済産業省と国土交通省が推進する「スマートモビリティチャレンジ」\*1の一環として公募された、経済産業省の令和3年度「地域新 MaaS 創出推進事業」\*2に採択されました。また、十勝バスが推進する「大空マイクロ戦略」\*3の一部としても実施されます。

本実証を通じて、主に次の点を検証し、地域及び日本のモビリティ課題の解決につなげます。

- 路線周辺住民の生活の質向上効果
- 交通事業者の収益向上ならびに多角化の可能性
- 路線バスに移動販売店舗機能を持たせた場合の運用性と機能要件

## 実証事業の概要

### 遊休車両を改造したマルシェ機能付き路線バスの運行



#### ■狙い

- ・ 徒歩圏に住民の生活の質を向上するサービスを提供

#### ■料金に関する考え方

- ・ 路線バス運行時の乗客は通常の運賃を支払う。
- ・ 商品販売の売り上げは店舗運営事業者が得る。契約に応じて売上金額の数%+十勝バスに支払い。
- ・ 店舗運営事業者は十勝バスに、基本利用料金(車両使用料、ガソリン代、運転手・販売補助員人件費など)を支払う。

出典:経済産業省ウェブサイト <https://www.meti.go.jp/press/2021/08/20210824001/20210824001-1.pdf>

12月5日の運行開始に向け、遊休状態にある車両のリニューアル作業を進めており、今後は以下のスケジュールで内外装の改造等を行う予定です。

日程	作業	実施場所
11月15日～11月20日	外装・ラッピング作業	中島自工
11月21日～11月24日	内装(乗車部分)作業	十勝バス
11月23日～11月26日	内装(店舗部分)作業	十勝バス
11月27日～12月2日	試験運転等	—
12月3日(14:30～16:30)	大空団地向け展示会	JA川西大空支店
12月4日(11:00～13:00)	報道関係者向け内覧展示会	夢の北広場
12月4日(14:00～16:00)	一般向け内覧展示会	夢の北広場

12月4日に実施する報道関係者向け内覧展示会では、バスの内外のご紹介に加え、実際に商品販売を行い、マルシェバスでのお買い物を体験いただけます。当日は当社取締役である長沢をはじめ、株式会社藤丸 藤本社長、帯広市、KPMG モビリティ研究所 小見門所長、などが参加し、ご挨拶と本実証に関する情報提供を行います。

十勝バスでは今後も「大空マイクロ戦略」を推進し、路線バスを通じた移動課題の解決に向けた取り組みを積極的に行っていく予定です。まずは貨客混載の仕組みを活用し、十勝管内から帯広駅周辺まで、芽室町の「なまら十勝野」などの特産品をマルシェバス販売用に

輸送する予定です。

\*1 スマートモビリティチャレンジとは

経済産業省と国土交通省が、将来の自動運転社会の実現を見据え、新たなモビリティサービスの社会実装を通じた移動課題の解決及び地域活性化を目指し、地域と企業の協働による意欲的な挑戦を促すプロジェクト。[\(https://www.mobilitychallenge.go.jp/\)](https://www.mobilitychallenge.go.jp/)

\*2 地域新 MaaS 創出推進事業

経済産業省が、新たなモビリティサービスの社会実装及びその高度化を目指して、先進的かつ全国横断的な課題に挑戦する地域を公募する事業。

\*3 大空ミクロ戦略について

十勝バス株式会社が進める、「いつも身近な存在として皆さまに生活の安心を届けます」という理念のもと、次世代につながる上質な生活・まちづくりをデザインし、住む人が健康で幸福に暮らせるコミュニティの創造を目指す取り組み。

### 本協議会について

本協議会は十勝・帯広におけるモビリティの次世代化による交通課題解決を目的に、幹事企業である十勝バス株式会社および KPMG モビリティ研究所を発起人として 2021 年に結成されました。本協議会は発起人のほか、帯広市、大空町連合自治会、十勝圏二次交通活性化推進協議会、北海道経済連合会、株式会社セコマ、株式会社藤丸の北海道 6 企業・団体、株式会社 KPMG Ignition Tokyo、Via Mobility Japan 株式会社、株式会社良品計画の首都圏 3 企業・団体の計 11 企業・団体により構成されます。